

碑前の誓い

「新しい戦前」が、益々現実味を帯びてきました。岸田政権は、バイデン詣での手土産に自衛隊の米軍指揮下入りを約束するとともに、武器輸出解禁の道を開き、軍事と一体化させて統制を強める経済安保法を成立させなど、平和憲法を蔑ろにした「戦争する国づくり」を執拗に推し進めています。

昨年十月に始まったイスラエルによるラファ攻撃は、子どもや女性をはじめ多くの民間人の命を奪い続け、停戦の見通しさえ立っていません。ロシアによるウクライナ侵攻は、二年三カ月の長きにわたって続いています。

今、平和憲法を持つ国としてすべきことは、「戦争の準備」ではなく「平和の準備」です。

健康保険証を廃止しマイナンバーカードを強制する、物価高騰は留まるところを知らず実質賃金は24ヶ月連続の前年比マイナス、訪問介護報酬の切り下げや介護保険料の値上げなど、庶民の暮らしに背を向けた社会保障切り捨ての諸政策が推し進められています。

甚大な被害をもたらした元旦の能登半島地震から五ヶ月。未だ避難生活が続き、復興は遅々として進んでいません。

今こそ、憲法を暮らしに活かすことが求められます。

一九二八年五月二十一日、九十六年前の今日、青木村農民組合が創立され、以来、平和憲法を生み育て、立憲主義の世の中を築き上げる不断の闘いが、この地で、そして、全国各地で繰り広げられ、脈々と受け継がれてきました。

三年前、二〇二一年五月二十一日、暗黒の時代から侵略戦争に反対し、人々の暮らしを守る運動の先頭に立つてこられた山本虎雄さんをはじめとする昭和の義民たちの功績を讃え、その志を受け継ぎ、平和と民主主義を守り発展させる決意を込めて、この地に山本虎雄顕彰碑が建立されました。

今日、私たちは碑の前にして誓います。

私たちは、断じて歴史の逆行を許しません。

憲法改悪を許しません。

戦争を準備する動きを許しません。

平和を守り、

ひとり一人の命が輝く、今と未来を創造する歩みを続けます。

悪政に立ち向かい、声を上げ続けます。

二〇二四年五月十九日

山本虎雄顕彰碑々前祭・若葉のつどい
参加者一同